

「Voice Retriever」を長崎で入手したい方へ

当文書は、私が Voice Retriever を入手した際の経験などで補足したものです。
詳細は、東京医科歯科大学の Web サイト [「Voice Retriever のご案内」](#) をご覧ください。

(1)保険外診療です

「Voice Retriever」は保険外診療です。

(2)オンライン診療対応

上京せずに入手するためには、オンライン診療で対応する必要があります。
オンライン診療にはスマホがあれば対応できます。
Web サイト記載のメールアドレスに申し込めば、メールで具体的な方法の連絡が来ます。

(3)初期の費用と診療回数

サイトには「3回の診療で最低8万円程度かかります。」
と記載されてますが、2回で入手できました。
私がかかった費用は、東京医科歯科大学に約11万円、市内歯科に数千円となりました。

(4)対応できる歯科医師

長崎大学病院では、保険外診療はインプラントのみが対象(2023年6月現在)のため、
対応できませんでした。
「初診時は、患者側でかかりつけ医師あるいは歯科医師の同席が必要です。」
とありますが、かかりつけに相談しても、おそらく実績がないなどの理由で断られます。
従い、協力して頂ける歯科医師を探す必要があります。
自分で探すのは難しいので、歯科医師会(市 or 県)に紹介をお願いすると、探してもらえます。
必要であれば、下名がお願いした医師を紹介しますが、都度了解が必要なため個別に相談に応じます。

(5)自分の声を原音にする

喉摘前の自分の声データがあればそれをベースにして、Voice Retriever に発声させることができます。
<手順>

- ①まず、音声編集アプリ(ソフト)で、原音となる母音の「あ」を取り出します。
- ②原音「あ」を10秒くらい伸ばした「あ〜」のデータを制作します。
- ③音量などを調整して原音を完成させます。
- ④完成した原音を Voice Retriever に録音すると、自分の声がベースになります。

(録音方法は、Voice Retriever のマニュアルを参照)

※録音は上書きですから、何回もできますが、戻すことは出来ません。
元に戻せないことに注意し、よく考えてから実行してください。

(6)発声の難しさ

マウスピースで口内構造が変化するため、喉摘前の発音にはなりません。
個別にトレーニングが必要です。

(7)故障等の対応

「Voice Retriever」は口の中に入れ、嚙んだりするので、マウスピースは特に故障率が高くなります。
故障したらその都度、東京医科歯科大学にメール等で相談します。

(8)長短まとめ

<メリット>

他の人工喉頭のように雑音は出ず、発音が明瞭。
音量も他の人工喉頭より、大きくできる。
自分の声を原音にできる。

<デメリット>

初期費用が、他の人工喉頭より高い。
維持費用(故障率)も、他の人工喉頭より高い。
故障したら、復旧するまで使えない。
いつも口に加えておくのは不便。外しておくとは即答ができない。

以上